浜岡原子力発電所に係る「減損損失」について

中部電力

「減損損失」は、決算時点の情報に基づき、設備など固定資産の会計帳簿上の金額を見直す会計処理です

■「減損損失」とは

設備を保有	決算時の確認	減損損失の計上
企業が保有する設備などは、将来の事業活動でコスト回収できる前提で、固定資産として会計帳簿に計上します	決算時点の情報から、将来の事業活動でコスト回収できるかを改めて評価します	回収できることを十分に説明できない部分を、会計帳簿上の「固定資産」の金額から減額します

■ 今回、浜岡原子力発電所で減損損失を計上した理由

- 基準地震動の策定に係る不適切事案についての調査委員会による調査報告書およびこれを踏まえた設置変更許可申請等の取り下げなどにより、将来の事業活動からの収入等について不確実性が高まりました
- そのため、決算時点の情報に基づき、不確実性の高まりを考慮して評価した結果、将来の収入等から固定資産のコスト回収が見込まれるシミュレーションも存在するものの、現時点で十分な根拠をもって回収可能性を説明することが困難と判断し、会計ルールに従い減損損失を計上しました

今回の「減損損失」の計上は、会計上の処理であり、浜岡原子力発電所を廃止するという意味ではありません

■ ご理解いただきたいこと

① 廃炉を意味しません	② 今ある情報での会計上の評価です	③ 再発防止、信頼回復を最優先に
決算時点での資産価値を見直す会計上の判断であり、浜岡原子力発電所の廃止を意味するものではありません	不確実性の高まりを考慮して、総合的に評価した結果、コスト回収が見込まれるシミュレーションも存在するものの、十分な根拠をもって回収可能性を説明することが困難と判断し、会計ルールに従って会計処理しました	現時点で再稼働についてお話しできる状況にはありません。まずは組織風土や業務プロセスの改善を着実に実行し、信頼回復に向けた取り組みを最優先に取り組んでいきます